

小児の重症のインフルエンザ予防に4価ワクチン

現在、一般的に使用されている3価ワクチンには1種類のインフルエンザBウイルス系統しか含まれておらず、他のBウイルス系統には効果がない可能性がある。本研究では、候補とされる両方のB系統を含有する不活化4価ワクチンの有効性を評価した。3歳から8歳の小児を対象に、4価ワクチン接種群とA型肝炎ワクチン接種群(対照群)に割り付けた(各群2,584人)。インフルエンザA型またはB型の罹患の確定は、第1次評価として即時PCR法で、第2次評価として血液培養で行った。ワクチン接種の結果、4価ワクチン接種群では62人(2.40%)、対照群では148人にPCR法でインフルエンザの罹患が確認され、4価ワクチンの有効性は59.3%となった。血液培養による評価では59.1%であった。中程度から重症のインフルエンザの発病は4価ワクチン接種群で0.62%(16人)、対照群で2.36%(61人)となり、4価ワクチンの有効性は74.2%を示した。4価ワクチン接種により、対照群と比べ39度以上の発熱や下気道疾患のリスクが低下した(相対危険度はそれぞれ0.29、0.20)。重篤な副反応は4価ワクチン接種群で36人(1.4%)、対照群で24人(0.9%)にみられた。

よって、4価ワクチンは小児のインフルエンザの予防に有効であることが示唆された。

出典：New England Journal of Medicine. 2013; 369: 2481-2491